

4 外国語教育グループ

(1) 理論・提言

① 研究課題

「児童生徒が自分自身に関わることを，自ら選択・決定した適切な語彙や表現を用いて，発表したり伝え合ったりする場がある授業の創造」

② 研究のねらい

現行学習指導要領では，目標として「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。」とあったが，新学習指導要領では，「身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」と改訂される。この改訂は，小学校の目標が現行の中学校の学習指導要領に近づくものであり，小・中の接続をより強く意識したものであると考えられる。

これは，中学校学習指導要領の目標をおさえた円滑な接続を意識した指導や有効な教材が求められるということであり，児童の「聞きたい，伝えたい。」という気持ちを引き出す活動につながる教材，単に知識を身に付けさせるのではなく，コミュニケーションをすることで得られる楽しさを実感することができるような授業実践を目指すことが期待されているものである。

今年度も全面実施へ向けて，公開授業研・ミニ研修講座・リーフレット等で，市内の学校への積極的な情報提供にも力を入れて取り組んでいき，室蘭市の外国語活動や英語科の授業改善，レベルアップを図っていく。

③ 研究内容

ア. 公開授業

- ・小学校ならびに中学校の授業公開を行い，来年度の小学校教科化に向けての準備となる内容を意識した授業公開を行う。市内小学校の校内研修との連携を図る。

イ. ミニ研修講座

- ・公開授業のねらいや意図を解説する。また，ワークショップの実施で教員のスキルアップを図り，教材提供等も行う。さらに，中学校教諭の視点を意識したワークショップを行うことで，小中の接続を意識した内容を加えていく。

ウ. 教員向けリーフレット

- ・教員向けリーフレットの作成を行い，授業のスキルアップの助けとなる内容を提示していく。内容的には，小中外国語の内容を含むものとなるよう質的向上を目指す。

エ. 視察研修

- ・JES 小学校英語教育学会全国大会（札幌大会）に参加し，来年度からの全面実施に向けた準備・情報提供を行う。

(2) 実践例

① 公開授業 I : 小 5 年 Hi, friends! 1 L7 “What’s this?” (3/3) 海陽小

----- English Activities' Lesson Plan -----

1) Aim 身の回りの物を表す語や, ある物が何かを尋ねたり答えたりしようとする。
ヒントを考え, 問題をだす。友達の問題に答える。

2) Procedure

Time	Activity		Notes
	Students	Teacher	
10min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Small talk 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Small Talk (club activity) 	1 時間の流れを確認
3min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Review 前時までの単語や表現の仕方を思い出し, 声を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ [What’s this?][It’s a~.]の言い方を促す。 	絵カード用意
5min	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Hint/チラ見せ Quiz review クイズに答えたり, 習った表現を使おうとする。 [What/category/shape/color?] [Hint, please. Down, Up, Light, Left] 	<ul style="list-style-type: none"> ・ [What’s this?][It’s a~.] 	デジタル教材用意 (P31) 実物投影機用意
15min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Let’s play 自分で作ったクイズを出題し, 友達の出題した問題に答えようとする。 ・ 今単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習った表現を使って自由にやり取りをし, 十分に慣れ親しむことができるように支援する。 	Reflection Sheet 用意
10min			
2min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting 	

◎授業づくりのポイント

① 授業展開の工夫

- ・本時のねらいと 4 5 分間の流れが板書に提示されていた。児童らは見通しを持って活動することができた。
- ・単元末の活動であったため, 既出単語の確認や 3 ヒントクイズの流れの説明は最低限に留め, クイズ作りの活動時間を十分に確保していた。児童ら自身が英語を使ってクイズを出題したり, 答えたりするやり取りができた。
- ・「話すこと」領域の目標に応じ, クイズ作りの際に自分たちでアイデアを生みだし, 語句を選択する活動となっていた。

② その他

- ・ Sounds and Letters～アルファベットの音と書き順の指導
単調に書くのではなく, 音を復唱し, 音と文字をつなげていく活動として位置づけている。

② 公開授業Ⅱ：小6年 We Can!2 U3 “He is famous. She is great.” (5/8) みなと小

----- English Activities' Lesson Plan -----

- 1) Aim 語順に気を付けて、絵カードで英文を作る。英語の語順について考える。
 2) Language use I like ～. I eat ～. I want ～. I study ～.
 3) Procedure

Time	Activity		Notes
	Students	Teacher	
Warming up 3min Small Talk 10min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Today's Menu <p>① Small Talk 「暑い日にはこれがいちばん～好きなドリンクはこれ！」 I like ～. I want ～.を使って。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ 1時間の流れ ①～④を示す ・ Additional (Bonus) Phrases の活用を促す。 	ホワイトボードにも、Additional Phrases の絵カードを掲示
<p>めあて： 英語の文を作って、考えよう。</p>			
Main activities 20min	<p>② Let's play キーワードゲームとミッシングゲームをしながら、本時で活用する4文を思い出す。</p> <p>③ Let's Make and Think 絵カードを使って英語の文を作る。 カードの並び方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ I like/eat/want/study を確認させる。 ・ 意味が整うように、英語の文を作らせる ・ カードの並び方で気付くことを尋ねる。 	ホワイトボードにも、I like/eat/want/study の絵カードを掲示 「〇〇が・〇〇する」カードも掲示する。
Sounds and Letters 10min	<p>④ Sounds and Letters アルファベットには名前と音があることを思い出しながら書く。 音の聞き取りクイズをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名前と音を強調しながら確認する。 ・ 文字を書くときには高さに注意させる。 	WC!1 Unit 9-9 (p, q, r, s, t) シート用意
Looking back 2min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Reflection 今日の学習を簡単に振り返る。 ・ Greeting 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting 	リフレクションシート使用なし

◎授業づくりのポイント

① 授業展開の工夫

・語順の規則性への気づきを促すため、教師と児童らとで行うゲームの時点から掲示するカードの並び方を意図していた。これにより、児童らがすらすらとカードを並べかえることができた。また、日本語のカードと対比させて提示したことで、日本語との違いについても児童らは気づくことができた。

② その他

・Small Talk では、本時でも活用されるフレーズが用いられる場面設定をすることで、Main Activities につなげていた。話題は、話す練習のためではなく、児童らの”本音”が引き出されるよう日常生活に絡めたものである必要がある。

③ 公開授業Ⅲ：小6年 We Can!2 U5 “My Summer Vacation” (5/8) 旭ヶ丘小

----- English Activities' Lesson Plan -----

1) Aim 夏休み・週末に行った場所と楽しんだこと、食べた物や、その感想を表す表現に慣れ親しむ。

2) Language use I went to ~. I enjoyed ~. I ate ~. It was ~. Ice cream, curry and rice, nice, exciting, great, etc.

3) Procedure

Time	Activity		Notes
	Students	Teacher	
Warming up 3min Small Talk 10min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ Today's Menu ① Small Talk 「夏休み・週末に行った場所と楽しんだこと、その感想」 I went to~. I enjoyed~. I ate ~. を使って。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting ・ 1時間の流れ ①~④を示す。 	指導者同士のデモンストレーション
めあて： 夏休みや週末に行った場所と楽しんだこと、食べた物、その感想を言おう。			
Main activities 20min	<ul style="list-style-type: none"> ② Let's Chant チャンツで、主要表現に慣れ親しませる。 ③ Let's Talk I went to~. I enjoyed~. I ate ~. It was~. の会話練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声や歌詞を抜きながら繰り返し練習させる。 ・ 指導者のデモンストレーション、ペア練習 1/2 で段階的に会話量の難易度を上げながら。 	デジタル教材 ・最終的に、Additional Phrases を加えた会話を意識させる。
Sounds and Letters 10min	<ul style="list-style-type: none"> ④ Let's Read and Write 夏休みや週末のことをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べた物とその感想を書かせる。 	WC!2 Unit 5-4 (I ate~. It was ~.)シート用意
Looking back 2min	<ul style="list-style-type: none"> ・ Reflection 今日の学習を簡単に振り返る。 ・ Greeting 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greeting 	リフレクションシート使用なし

◎授業づくりのポイント

① 授業展開の工夫

- ・ Let's Talk を2分割し、会話量や聞き手のアクションを段階的に求めることで児童らの会話も無理なくステップアップすることができた。
- ・ 普段の Small Talk の中で積み重ねてきた反応・相づちを、本時の Talk の中で意識化させたことで、さらなる会話やコミュニケーションのスキルアップにつながった。

② その他

- ・ ALT との役割分担が明確で、デモンストレーションは特に有効だった。ライティングでのスペル、あの表現は何と言えば・・・と困った子どもに即対応ができる。

④ 公開授業Ⅳ：中1年 Sunshine English Course 1

Program 9 A New Year's Visit(1/10) 桜蘭中

----- English Activities' Lesson Plan -----

- 1) 目的 ・英語の現在進行形の文に慣れ親しみ、現在進行形の文を読むことができる。
 ・本文の内容を理解して、現在進行形の文などを正しく読むことができる。
- 2) 使用する主な言語材料 Sentence : I am ~. You are ~. He/She is ~ and so on .
 Words : brushing, changing, cleaning, cooking, doing, drying, eating, getting, going, making, playing, seeing, studying, taking, writing, etc.
- 3) 本時 (1 時間目/10 時間)

Time	Activity		Notes
	Students	Teacher	
導入 15min	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単語の復習 ・ ビンゴ ・ あいさつ ・ Let's try (スピーキング活動) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード ・ PP, PJ, WS 使用
めあて：登場人物の気持ちを考え、会話文を表現することができる。			
展開： リーディング活動 25min	<ul style="list-style-type: none"> ① 新出単語 <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し / 句や文を作る / 言い換え / スペリングチェック ② ピクチャーカード <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物や内容の確認 ③ リーディング活動 <ul style="list-style-type: none"> (1) 会話を聞く (2) 自分読み (3) 回り読み (4) 役割読み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読めていない単語をチェックする ・ 大切な個所を伝える <ul style="list-style-type: none"> 1. 強く読む単語 2. 発音に気を付ける単語 3. 登場人物の気持ち (慌てているなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問をしながら内容確認を進めていく。
終末：振り返りとまとめ 8min	<ul style="list-style-type: none"> ④ まとめ活動 <ul style="list-style-type: none"> (1) 本文を暗唱する (2) ライティングノートに書く ・ あいさつ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 名前札 ・ ライティングノート

◎授業づくりのポイント

① 授業展開の工夫

- ・ 新出単語の学習では、反復が単調にならないよう、テンポを素早くして単語の意味やスペリングを結び付ける活動を短時間で効果的に行うことができた。
- ・ リーディング活動では、本文を暗唱できるようスモールステップで刻む活動を取り入れた。黒板に名札を貼り自分の進捗状況を視覚化することで、「先のステップへ進もう」と、どの生徒らも意欲的に取り組んでいた。

② その他

- ・ ALT に発音を評価してもらい、即時的に正しい発音を身に付けられていた。

(3) 小中連携に関わって：中学校英語入門期（４・５月）で重視すること

- ・小学校との指導法の継続を図ることで、生徒の英語の授業の入り口を少しでも安心させる。
- ・小学校で行っているスモールトークやスリーヒントクイズ、カルタなどの活動を取り入れ、「やったことがある」「この活動を知っている」と小学校外国語活動が役立っていることを実感させる。
- ・小学校ではチャンツを使っているのを、それを応用してリズムよく、英語に触れさせる。
- ・小学校で出てくる単語や表現を生かしながらコミュニケーション場面を設定する。そうすることで、「もうすでに英語が使えるんだね」「水色を、light blue や sky blue など二つも知っているんだね。すごいね。」と、入学して間もない生徒らをほめる言葉がけをする機会となる。
- ・生徒らが英語を使ってコミュニケーションをしている授業態度や英語力を、教師が良い言葉で認めつつ、生徒に英語が使える楽しさ、自信を持たせる。
- ・クラスの中に、発音が上手な生徒や英語をすでに習っている生徒がいたら、student-teacher として、活躍の場を作ること。

「安心」「自信」⇒落ち着いて表現できる精神的環境を作る

(4) 成果・課題

<成果>

- ・市内各校の校内研修と抱き合わせの形で授業公開＋ミニ研修講座を行った。計４回という数をこなせたことはもちろんだが、ステップを踏んで講座の内容を精選することができ、参加者も前年より増えたことは大きな成果である。
- ・研修講座でのワークショップは参加者から良い反応をいただき、先生方の必要感があることが分かった。授業とセットの内容にすることで、参加者も理解しやすいとの声があった。
- ・ALT がいる場合、いない場合の担任の役割や、専科ではない担任が授業を行う際の留意点などを講座の中で話題にすることができ、それぞれの良さや課題について交流を深めることができた。
- ・中学校における公開授業を実施できたこと、各研修講座において中学校英語教諭の視点から「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の指導の実際について情報提供できたことで、小中接続の意識化を図ることができた。
- ・JES の視察研修では、数々の先進的な実践の報告や、新学習指導要領全面実施に向けた評価のあり方について学ぶことができた。
- ・英語でトライ、イングリッシュトライアルなどの市内行事にも参加し、児童・生徒の英語学習に対する関心やスキル等について実際にやり取りしながら感じる事ができた。

<課題>

- ・専科がいる学校、いない学校とで実態の違いはあるが、特に専科不在の学校に向け、今後も情報提供の機会をつくったり、参加しやすくしたりする工夫が必要である。
- ・新学習指導要領の全面実施に向けて、「評価」の部分に関しては今後も実践と情報収集を並行させていく必要がある。
- ・新採択となった教科書の効果的な活用については、来年度喫緊のテーマといえるだろう。これまでの教材との共通点・相違点を整理して使用していく必要がある。
- ・小中連携のあり方、接続の視点は今後も継続して深められるよう、中学校英語教諭向けの情報提供や交流をできる機会を作れるとよいと考える。

(5) 研究視察報告

外国語教育 G 研究視察報告

□ 視察研修報告 第19回小学校英語教育学会 (JES) 北海道大会

《日時・会場》 2019年7月20日(土), 21日(日) 北海道科学大学

《テーマ》 新学習指導要領全面実施を見据えた小学校英語教育
-早期化・教科化にどのように対応すべきか?-

○ 実践発表 (札幌市立あいの里小学校6年) 高橋 文 教諭

- ・導入場面で Small Talk を行っている。教師とのやり取りから、子ども同士のやり取りへと変化させていく。実践の後、中間交流で反応の仕方を確認し、再試行をする形式をとり、コミュニケーションの素地を育みながら本時の学習内容へと自然な形で向けていく。
- ・展開場面での交流においても同様に、相手を意識したやり取りを大切に行っている。活動の前段ではアウトプットを重視し、一度中間交流をはさむ。後半では話を広げることで会話を広げていく。
- ・終末場面では Reading と Writing を行っている。あくまでも音声から文字へと転移させていくことを重視している。言い直し、繰り返しによって習得へと向けている。

○ ワークショップ (大分大学教育学部附属小学校) 秦 潤一郎 教諭

- ・外国語授業を支える「4R」として、附属小中学校では「rapport (調和・信頼)」「reflection (自己省察)」「response (無意識的な反応)」「reaction (意識的、意図的な反応)」を掲げている。
- ・このうち「response」「reaction」については、「Classroom English」によって底上げが可能である。附属小中学校においては、Classroom English を場面や目的ごとに分けた上でチャンツ化し、子どもたちも活用できるようにと考えられている。
- ・全面実施化に向け、高学年「外国語科」においては3・4年までの学びを「整理・形成・再構築」することが重要である。
- ・実際の授業場面においては、「Check (確認)」「Guess (推測)」「Feeling (気持ち)」「Basic (言い換え)」の4つの視点から、評価できそうな子どもの姿を予測しておくことが大切である。

外国語科 (高学年) の指導について

・実際の授業場面での子どもの姿で言えば
例: Unit6 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域
☆他者に配慮しながら、行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

Check 【確認】「自分が伝える内容を、ちょっと見直してみよう・・・」

Guess 【推測】「あの人は、たぶんアメリカが好きだから、アメリカのことを伝えよう・・・」

Feeling 【気持ち】「オーロラって、カナダで見ることができんだ。とってもいい国だね・・・」

Basic 【言い換え】「自由の女神はThe Statue of Libertyだけど、たぶん相手に伝わらないだろうから、Free Lady God だとうかな・・・」

外国語科 (高学年) の指導について

・文部科学省 We Can! の単元と目標をもとに、
以下の4つの視点から、
評価できそうな子どもの姿
を、みなさんで考えてみませんか?

Check 確認

Guess 予想推測

Feeling 考え気持ち

Basic 分かりやすい、知っている英語で

○ 研究発表（寿都町立寿都小学校）八木 啓太 教諭

「小学校英語の教科化を見据えた移行期の取組」

- ・町内の小中高の教員による英語部会において、小3～高3までのゴールを明確にした教員及び児童用のCAN-DOリストを作成した。
- ・CAN-DOリストをもとに、評価基準を明確にしたパフォーマンステストを実施している。動画として残し、次年度以降の児童の見直しにもなっている。
- ・担任が授業を進められるよう、TTの役割分担の明確化を行い、授業をパターン化。指導案の積み上げや教材整理等も行い、授業の準備がしやすい環境をつくっている。

○ 特別講演（文部科学省初等中等教育局）直山 木綿子 氏

「新学習指導要領全面実施に向けて—指導と評価の在り方について考える」

講演概要

「児童生徒の学習評価の在り方（報告）（2019年1月21日）及び、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（2019年3月29日）」などを基に、学習評価の視点から外国語科においてどのような指導が求められているかを見直す。

◇外国語科における学習評価のイメージ…どのように、何を評価するのか？

・「知識・技能」について

ペーパーテストなども既に作成されている。イメージとしてはイラストが多めなものとなるだろう。英語の特徴や決まりに関する事項の理解、実際のコミュニケーションにおける基本的な技能を身に付けているかを評価することが大切である。

・「思考・判断・表現」について

見方・考え方を働かせているかを見とる必要がある。とりわけ外国語においては、コミュニケーションの場において思考を働かせているかを評価するため、単元終末の言語活動などにおいて評価していくイメージとなる。

・「主体的に学習に取り組む態度」について

学び方についての評価（現行でいう関心・意欲・態度）となる。自己調整、つまり自己の変容が起こったのはなぜか？ どういう行いをしたからか？ どういう姿勢や心構えだったからか？ といった側面を複数単元に1回程度、評価していくことが大切である。

一方、評定にはなじまない「感性、思いやり」の部分については、通知表や要録の所見欄に記述するなど、留意が必要である。

◇以上をふまえた指導の在り方は？

- ・言語活動について、単元の内容に合ったものを設定することはもちろん、「必要感・本物のコミュニケーション・相手意識」を備えた言語活動を設定し、段階的に指導していくことが大切である。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、児童生徒が自ら振り返ることのできるような発問や、自分の考えを記述したりする機会を単元や題材のまとまりごとに設けていくことが必要である。